



真宗大谷派 東岳山  
安泉寺

〒496-0945  
愛知県愛西市三和町中ノ割173-1  
TEL: 0567(28)0001  
Mail: dai5noro@gmail.com

登録してね



ANSENJI.AISAI



2025年

7

月号

NO.172

―目次―

表紙「トミー君」4頁

百折不撓「これからのお寺」

いのちをいただく

コウノトリ見守りたい

天空の城 IPUKU

めまい

それでも人生には意味がある10.

掲示板・お知らせコーナー

野呂大悟

野呂美道

野呂美道

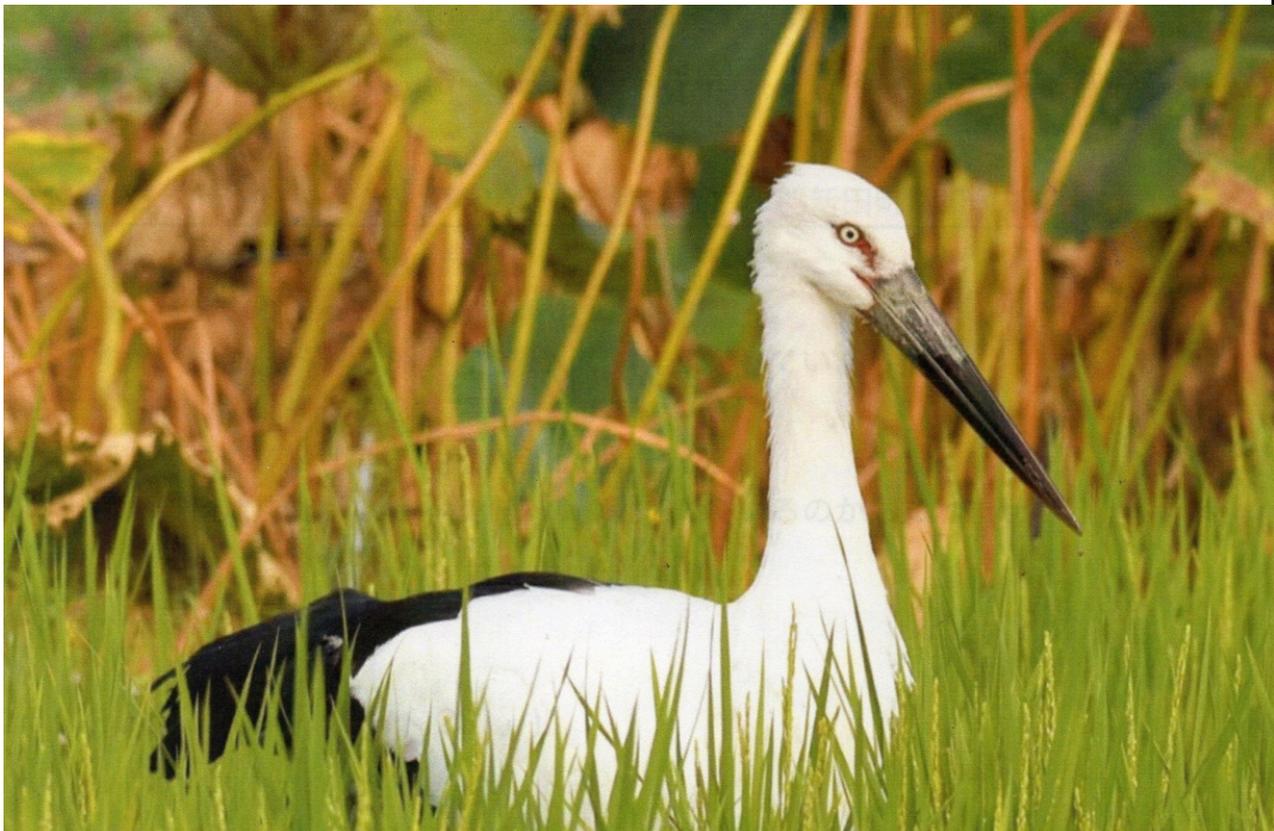
野呂美道

野呂美道

勝田茅生

泉

-IZUMI-



青田にて 不動の姿 コウノトリ

博子

私が安泉寺の住職を務め六年目に突入しようとしています。未だ分からない事も多く、何をどうしたら良いか迷うこともたくさんあります。その度に地域の方々や門信徒の方々にはご迷惑をおかけしてしまい、大変申し訳なく思っています。そんな状態ではありませんが、私自身もお寺の存在意義を考えさせられることも多く、これから将来に向けて危機感を抱いている一人でもあります。

先日、安泉寺を会場にして「有償福祉運送・交通空白地有償運送」の勉強会を実施いたしました。大変多くの方々にご参加いただき、有意義な勉強会になったことと思います。しかし、その勉強会を通して、やはり様々な事に気づかされました。

私たちの地域、特に立田・八開地区の鵜戸川より西側は、深刻な「交通空白地」です。車がなければ買い物や通院もままならず、多くの方が移動に困難を抱えています。

とりわけ、高齢者の方々にとっては切実な問題です。免許返納が推奨される一方で、生活のためには車を手放せない。この矛盾の中で、不安を抱えながら運転を続けている方も少なくありません。

行政も対策を講じてますが、今後さらに多様化するであろう地域の課題に、すべてを委ねるわけにはいきません。というよりは、財政の問題、人的な不足もあり、対応も今後かなり困難になっていくでしょう。だからこそ、大切なのは、私たち住民自身が「自分たちの地域をどう良くしていくか」を考え、行動することです。

その中で、私たちお寺が果たすべき役割があるのではないかと、強く感じました。本来、お寺は人々が「生きる」という根源に向き合い、心安らぐための場所です。その教えに出会う場を軸に、人々が集い、繋がるためのコミュニティの中心となること。それこそが、これからの時代に求められるお寺の姿であり、その役割を果たせなければ、お寺自身の存在意義も薄れていってしまうでしょう。

もちろん、行政や地域の様々な団体と手を取り合い、協働することも不可欠です。しかし、誰かに頼るのではなく、「まずは、私たちにできることから始める」。この思いを胸に、声なき声に耳を傾け、地域の方々のための「居場所」となるべく、安泉寺というお寺が中心となった活動が展開されていくことが重要なのではないだろうかと考えています。

地域の豊かさは、そこに住む人々の心の豊かさです。その豊かさとは、人が人と繋がっているという実感こそが土台となるはずで、その中心を担う存在として、お寺の新しい価値を創造していくことが、地域とお寺双方の未来を築く道だと、改めてそう感じるようになりました。



有償運送勉強会の様子



◆この見事な銀鮭（ぎんじゃけ）は、毎年女川の鈴木さんより送られてくる。スマホと比べてほしい。全長50cmほどもある。私と孫の小蓮とでさばいた。◆まず3枚におろすのが至難の技だ。身はとも柔らかく、あまり強く握ると崩れる。何とかかんとか3枚におろしたが、中落ちの身が沢山出てしまう。それをフォークでこそぎ落とそうとしても、なかなかほぐれてこない。◆半身は皮をそいで、お刺身用に。それを小蓮がとても丁寧な柳葉包丁でお造りにしてくれた。さて、あと半分は皮ごと切り身にして、酒と醤油に漬けて込んで照り焼き用に。◆アラは煮だしてスープに。中の身をほじくりだして、フ

レーク状にしてスープと共に炊き込みご飯の材料に。ハラミの脂ののった切り落としは、塩を振り、そのままグリルで焼いた。◆このように、骨以外はすべて食べられるようにさばいた。夕飯の炊き込みご飯、お刺身、味噌汁、ハラミの焼き物、などなど、銀鮭の味を堪能した。翌日以降に、中落ち井と照り焼きをいただいたが、味が浸みて絶品だった。◆調理器具やグリルの中やキッチンを後で点検したが、生臭さは一切感じられなかった。いかに鮮度が良かったかという証拠だ。◆このように、生き物のいのちをいただく私たちとしては、そのすべてを無駄なく食べきってあげることが何より大切なことだ。◆お釈迦様は自ら生き物を殺してはいけないと言った。しかし、肉を含んだどんな食事でも布施として受け入れられた。私が幼少の頃、寺の子の魚釣りを厳しく諫めた祖母は、檀家さんが持って来た、蓮の葉で包んだモロコヤフナを鍋に入れ、砂糖と醤油と酒を入れて、蓋をし強火で煮た。中で魚が暴れると、「なんまんだぶ、なんまんだぶ」と念仏を唱え、蓋を押さえつけた。私は頭の上に沢山のクエスチョンマークを並べたことを思い出す。◆西洋で動物愛護の団体が、日本の捕鯨のことを批判した。可哀そう、残酷だ、などなど理由を述べて。じゃあ、牛や豚や鶏は殺されて人間の食料になるのだが、残酷ではないのか？ クジラだって骨以外はすべて活用し、無駄な部位は何一つ残さないのが日本の捕鯨の伝統だ。生き物をいただくときの感謝を世界中の人間はもっともつと感じるべきだ。銀鮭を解体する時、それを深く感じる事が出来た。

◆表紙のコウノトリは愛西市に初めて飛来した福井県小浜市出身のトミー君（個体番号）ONAN2022/4/1オス）だ。6月1日（日）安泉寺で「あいさいコウノトリ見守り隊 設立総会」が開かれた。◆表紙のトミー君は私も2年前、安泉寺の前の田んぼで遭遇した。以来、コウノトリの話題には事欠かない。◆現在の状況。愛西市で確認されたコウノトリの総数は全部で11羽、すべて足に輪っかがはめてあり、個体番号から、すべてのデータが分かる。そして、驚くべきことが起こった。何と市内で交尾をして、鉄塔の上に巣を設け、4個の卵を産み落とした！しかし、鉄塔は危険でもあり、専門家の手で卵は撤去され、コウノトリの故郷でもある兵庫県豊岡市の施設で大切に孵卵器で温められた。4個の卵のうち、3個が見事孵化し、幼鳥は現在、飛び立つための訓練中だそう。いずれ、愛西市に戻して、放鳥する手はずになっているとの事だ。私たちが知らない間に、コウノトリは見事愛西市に定着した。◆これらの話を安泉寺に集まったバードウォッチャーの方が冊子にしてくれた。専門家はすごい！今後、見守り続け、クラウドファンディングで資金を募り、愛西市のしかる場所に、コウノトリ専用の巣を作ることが目下の目標という。◆愛西市が愛西市を選んでくれたのだ！水田や蓮根田が多く、小魚やタニシなどのエサが豊富なことも、選んでくれた理由だろう。◆ただ、私が危惧することが

一つある。農家さんとコウノトリ、そしてバードウォッチングに集まるカメラマンたちとの共生の問題だ。以前、世界でも珍しいと言われるヘラシギが愛西市の田に訪れた。全国からバードウォッチャーたちが集まり、農道をふさぎ、市道に座り込み、住民に多大な迷惑をかけた。また、蓮根農家は鴨よけのために網をかける田が増えた。コウノトリが夜に引つかかると危ない。◆三方良しの解決策は簡単にはできないだろう。お互いに話し合い、みんなでコウノトリの繁殖を応援できれば、いずれ愛西市はコウノトリの町になる。せっかくの親善訪問者だ。温かく見守ることが試されている。

(第3種郵便物認可)



①愛西市内でコウノトリが営巣する様子 岩尾さん提供  
②兵庫県立コウノトリの郷公園でふ化したコウノトリのひな 同公園提供



中日新聞  
2025.6.25

◆昨年6月、写真クラブで訪れた、飯田市上村の下栗の里を再び訪ねた。友人の引っ越しのお手伝いで伊那市へ行く途中で立ち寄ろうとしたのだった。◆ところが、ちよつと立ち寄ろうとは、私の甘い考えで、実際はそこへたどり着くまでが、大変だった。

◆昨年撮影会で行ったことのある道だったが、定かでない。でもやっと思い出して何とかたどり着いた。茶屋「いっ福」の熊谷美栄子女将と旦那の兼富氏夫婦は私たちを待っていた。◆お土産に掘りたてのハウス蓮根を持参した。女将は感激のあまり、信州味噌のパックを二つもくれた。新茶はちゃんと買って行ってねと言った。商売上手だ。◆昼食の定食は数々の山菜と、パリパリの野菜の天ぷら、これがまた鮮度抜群で揚げたて、実にうまい！ 近所のおじさんが山ウドを持って来た。早速、柔かいウドの芽と蓮根を揚げてくれたが絶品！ 私たちは1年ぶりの再会を喜び、美栄子女将のダジャレに寒気を覚えながらも、聞き入った。◆孫が箱根駅伝にアンカーとして出場、その時の写真やら新聞記事が飾ってあった。孫の応援のために、夫婦は寝泊まり可能なミニバンを新調したそうだ！ じじバカ、ばばバカの見本だ。◆美味しい食事を終えて、私たちは伊那市に向かった。女将が教えてくれた下り道、断崖絶壁だ。途中ガードレールが無いところも。アクセルとブレーキを踏み間違えたら、谷底へ転落する。股の間がスーッとしずめの私は命がけでヘアピン坂を下り、右へ曲がろうとした。そうしたら何というこ

とだ。通行止め！ ◆ほかの道は国道まで何時間かかるか分からない。私は意を決して、先ほどの恐怖の道をまた引き返すことにした。深呼吸をして、崖を見ないように坂を登った。意外に登りの方が恐怖感はない。そして命からがら（私の感想です）国道に出ることが出来た。

◆日本の道は殆どが山道だ。「ポツンと一軒家」へ向かうような山道、しかし、そこにへばりつくように多くの国民が生活している現実を身をもって体験した。◆彼らの先祖は平家の落人だったに違いない。山里にひっそりと暮らす人々は我慢強い。過疎ではあるけれど、今の私たちが忘れてしまいたいような何かを持っている。「いっ福」の夫婦に深く教えられた一日だった。



揚げたての野菜の天ぷら

◆妻がひどいめまいに襲われた。6月の上旬、朝起きぬけに目が激しく回って立ってもいられない。やつのこと、起きてきても、目がぐるぐる回り、気持ちが悪くなった。便器を抱え込んで嘔吐しても、出るものも底をついた。◆このような妻の症状を見たのは初めてだった。以前にもよくめまいを起こした。昨年もこの時期に起こった。数日で収まったが、今回は全く改善しない。◆私は妻を乗せて津島市民病院へ搬送した。歩くのも困難で、車椅子に乗せて診察室に運んだ。診断は、良性頭位性めまいと、メヌエール性めまいが混在しているというものだった。早速治療が始まった。約90分の点滴と薬による治療だった。◆私は妻を点滴室に送り込むと、会計を済ませ、薬を受け取り、約1時間の待ち時間を過ごすことになった。それを見越して、私は日ごろ読みたい本を持って来た。院内のコンビニでホットコーヒーを求め、広大なロビーの窓辺にある椅子とテーブルに陣取り、ゆったりと読書に没頭した。病院内は程よくエアコンが効き、高い天井は圧迫感がなく、非常に快適に読書ができた。◆以前、私が胃癌で入院した時には、妻に世話になった。そのお返しと言っては何だが、ここはとことん妻に寄り添うことにした。◆ものは考えようだ。おかげで私には日ごろとは別の世界が広がった。妻のおかげで、至福のひとときが訪れたのだ。点滴は約1週間も続いたが、その間、私の読書時間も保証された。そして、妻が出来なかったことを私がしなければと

いう使命感が湧いてきた。◆この時期、お寺の庭では草が繁茂し、気になっていた。いつもなら妻が早朝に草取りをしている。私は意を決して暗いうちから草取りをすることにした。日が出るまでが勝負。数日間朝4時過ぎから5時半過ぎまで、庭の草取りに没頭した。そうしたら、気になっていた庭が少しずつきれいになってきた。◆緊急事態に対応することとは意外なメリットがあることを体験した。現在妻はふらつきを除いてめまいは収まったが、治療はまだ続く。

★めまいの小話。あるお父ちゃんが、初めて息子を本格的な寿司屋に連れていった。息子は「ここは寿司屋じゃない。寿司が回って出てこないじゃないか。」父親曰く、「ばかやろう、あとで金を払う時になあ、目え回るぞ！」



◎暗闇の中で愛する人と出会う

◆フランクルが「医師によるメンタルケア」の構想をまとめているとき、彼の人生に大きな幸運が舞い込んできました。同じ病院に勤める看護師ティリーと知り合い、結婚したのです。1941年、フランクルが36才の時です。◆ユダヤ人のティリーは、フランクルより15歳年下で、黒髪で目鼻立ちがはっきりした美しい女性でした。しかし、フランクルは彼女の外見よりも、心の温かさに惹かれたそうです。◆二人が付き合い始めて、フランクルの実家でティリーが夕食を作ったときのこと。いざ食べようとしたとき、フランクルは急患で病院に呼び出されてしまいました。ティリーは食事をせず彼の両親と待ち続けます。2時間後、ようやく帰宅したフランクルに、ティリーは「手術はどうだった？ 患者さんの具合は？」と声をかけたそうです。◆この言葉で、フランクルはティリーと結婚することを決めたのです。もし、「ずっと待っていたのよ」とか「私、おなか空いちやった」などと嫌味を言われていたら、ティリーと結婚しなかつたらうと、フランクルは述懐しています。◆両親のためにウィーンに残るといふ苦渋の決断をしたフランクルは、そのおかげで愛する女性と出会えました。彼にとって、暗闇の中に灯りを見つけたような気持だったのでないでしょうか。その年の12月にフランクルとティリーは入籍しますが、これはウィーンに住むユダ

ヤ人の最後の結婚でした。直後に、ユダヤ人が婚姻届けを提出する役所が閉鎖されたからです。◆また、ユダヤ人夫婦が子供をもうけることも禁止されました。もしユダヤ人の女性が妊娠したとわかれれば、すぐさま強制収容所に送られました。フランクルとティリーも小さな命を授かりましたが、諦めざるを得ませんでした。◆そして結婚からわずか9か月後、夫婦は双方の両親とともに、テレージエンシユタット強制収容所に移送されます。フランクルが37才のときのことです。愛する両親とティリーとの幸せな時間は、二度と戻ってくることはありませんでした。(続く)



フランクルとティリーの結婚写真 (1941年)

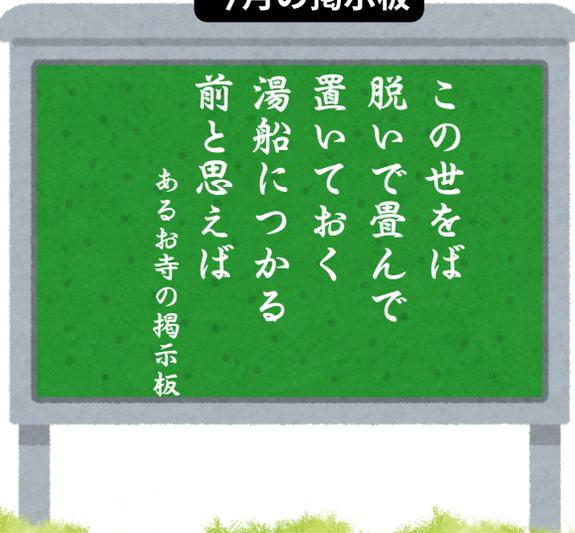


# お知らせ コーナー

## 7月の予定

- 大成講 一日(火)
- ハスワーク 五日(土)
- 環境保全除草・別院募金・ヨガ教室 十二日(土)
- 文芸クラブ例会 十七日(木)
- 写真クラブ例会 十九日(土)

### 今月の掲示板



- ◆「浄土温泉、極楽の湯」効能書き
  - ① 決して湯冷めしない、湯あたりもしない
  - ② 曲がった腰もまっすぐ伸び、認知も完治
  - ③ 湯上がり後 娑婆に戻って ひと仕事
- (往相回向と還相回向)

## いずみのほとり(老僧)



◎この愛くるしいワンちゃんの写真は、6月中旬に形原温泉あじさいの里で撮影したものです。偶然、4匹の同じ種類のワンちゃんを連れた方々に出会い、私は執拗にワンちゃんとおじさいのカットを狙って撮影を続けました。◆ワンちゃんだけで80カットも撮影しました。でも、面白く撮れたのはこの一枚だけ。◆このワンちゃん、振り向きざまが見返り美人ならぬ見返り美犬です。私なりに可愛いワンちゃんの写真が撮れたと思います、梅雨時の清涼剤の代わりに紹介させていただきます。

◎6月21日の仏教講座には、三和町の各字の総代さんや、安泉寺の責任役員さん住職・坊守・小蓮など多くの方々に参加していただき、感謝いたします。今後ともよろしく願います。

◎本堂の募金箱にお金が増えました。小蓮のささやかなフリーマーケット募金額が1081円、能登募金の額が13418円、総額14499円を東別院募金の日に届けます。皆さんご協力ありがとうございました。引き続きよろしく願います。



7月号



- ★3月末、私たちの請願運動で、愛西市全議会議員が満場一致で採択された、
- ◆防災を話し合う会を立ち上げてほしいという件と、
- ◆各地区の防災計画を作ってほしいという件が、議会

より行政の方に申し送りをされました。

★私たちは、4月中は、年度初めでもあり、時間がかかると思い、じっと待っていましたが、危機管理課の方からは全くのなしのつぶてでした。そこで、しびれを切らして窓口に行くと、全く手を付けていないという有様でした。

★ならばということで、ハザード会員がそろう日にちを調整し、第1回目の行政との話し合いの場がようやく6月14日に安泉寺で持たれました。

★メンバーは地域の自主防災会の顧問、大手建設会社のOB、田を委託耕作している農業者、市会議員、そしてハザード会員などが、市の危機管理課の4名の職員と話をしました。

★出た意見は次のようなものでした。

◆耕作地を市に寄付してもいい。その土地を利用して高台を作り、近くに緊急避難場所を設けてほしい。

◆リニア新幹線の残土を市に持ち込んでもらい、持ち込み料で休耕田や耕作放棄地を集めて



120m 四方の、高さが6mほどの台形の避難場所を作ることは可能だ。

◆愛西市は交通の便さえ良くすれば、人口の減少を食い止めることが出来る。弥富でJRと名鉄の相互乗り入れを実現し、佐屋や五ノ三駅から、関西線回りで名古屋に行くルートが出来れば、非常に便利になる。

◆若者が市の防災にこれだけ意見を持っているのは珍しい。これからの防災はいつも決まった高齢者が防災訓練をマンネリのように繰り返しているだけでは、進展がない。いつも緊急事態に対してしてくれるのは青少年と働き盛りの大人たちだ。ところが彼らが訓練に参加することはまれだ。もっと若者たちが防災に目を向けて行動する仕組みを作してほしい。

◆空き家などの問題がこれから深刻化してくる。高いところにある、しっかりした空き家は、いざと言ときに緊急の避難所にもなる可能性が高い。それらを見つけ出し、避難所にしていくことを考えたい。

◆以前、立田地区だけの仏教会が、避難場所や、遺体安置所のことなどを含めて、市と協定を結んでほしいと持ち掛けたことがあった。「立田地区」という狭いくくりでは市は首を縦に振らなかった。それから何年も経って、広くあま地域全体の仏教会では各市町村と緊急避難場所を含めた行政との協定を結んでもいいという意向を示している。すでに東京都をはじめ、全国各地で宗教

施設と防災協定を結んでいる地域は多い。

◆種々雑多な意見を出すだけでは、次回までの方向が定まらない。焦点を絞って、今回はこのことを話し合おうという方向を目指すべきだ。

◆であるならば、どこでも実施される、防災訓練において、青少年や壮年層の参加を呼び掛ける手だてを工夫しようではないか。学校に申し入れたりすると、責任の所在を問われることになり、おおごとになってしまう。そうではなく、訓練の参加者を家庭の責任で若者層に呼びかけることにすれば問題ない。

◆今回は、どのようにして、**防災訓練に若者層を自主的に参加させる**かをテーマに話し合いたい。

★以上のような活発な話し合いがなされましたが、行政の方々からは何一つ新たな提案すら出されませんでした。職員の独断では何も言えないことは分かりますが、それでも愛西市はホームページを見ますと、何百ページにも及ぶ市の防災避難計画書が出来ています。



また、個別避難計画書も、各自主防災会に作成するように指示がされています。しかしこれらはただの作文にすぎません。実効性に乏しいのです。具体的な行動の指針もありません。お題目にしておくだけでいいのでしょうか。

★私たちハザード会や、集まってもらった市民の方々には、防災に協力したいという熱い思いを抱いている方ばかりです。それだけの市民パワーを生かさない手はありません。ただ、市民の段階

では出来ることに限りがあります。行政でないとできない特権があるはず。だからこそ、両者が協力して防災を推し進めていくべきなのです。そのことを模索しつつ、**8月に第2回目の話し合いを持つ**ことで散会しました。

★この会はどなたでも参加できます。色々な分野の方々に参加していただくと、思ってもみない妙案が出てくるものです。引き続き、仲間を誘って参加してください。(文責：代表 野呂美道)

(写真撮影：ハザード会員 中野静梨奈)